

西諸県地域の普及活動

令和7年11月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 農業経営指導士とにしもろサップ会員の交流

10日に、にしもろサップ会員を参集し、事例発表会及び交流会を開催しました。

事例発表会では九州・沖縄農業士研修会で本県代表として発表する瀬戸山貴行さんが、自身の経営改善への取り組みについて発表しました。この発表は、サップ会員が日頃取り組んでいるプロジェクト活動に通じるものであり、参加者からは大変参考になり刺激を受けたと好評でした。

事例発表会後の交流会では、ざっくばらんな意見交換が行われ、それぞれの悩みや考え、技術や知識の共有が図られるなど今後の連携強化に繋がる有意義な時間となりました。



【瀬戸山さんの発表の様子】

2) 第21回えびの市米・食味コンクールが開催

20日に、JA えびの市本店において、「えびの市 米・食味コンクール」が開催されました。出品数はヒノヒカリが123点、にこまるが3点でした。審査員による食味審査の結果、ヒノヒカリの部最優秀賞に勘場 孝次さん、優秀賞に田村 誠一さんと隈元 靖夫さんが選ばれました。団体賞は下大河平自治会、小学校の部最優秀賞には加久藤小学校がそれぞれ選ばれました。審査員長をつとめた橋本儀兵衛氏から「えびの米は、恵まれた環境で栽培ができており、唯一無二の米だと感じている。今後も継続してコンクールを開催してほしい。」と挨拶がありました。



【受賞者の記念撮影】

3) 11月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、JA みやざき西諸県家畜市場運営部主催による令和7年11月期子牛郡品評会が開催されました。

市町子牛品評会を経た30頭が出品され、審査の結果、優等賞に6頭、壱等賞に12頭、弐等賞に12頭が選ばれました。なお、優等賞首席は小林市の株式会社森田牧場出品の「きぼう 412」号（父：桃白鵬）、2席は高原町の澤田ムツ子さん出品の「びおら」号（父：桃白鵬）、3席は小林市の山田真司さん出品の「やましん 873」号（父：白隆鵬）が受賞されました。受賞牛は、種牛性、伸び、幅に秀でているとの講評でした。



【優等賞首席 きぼう 412】

4) マンゴー販売高 7 億円突破記念大会

18 日に、令和 7 年産のこばやしマンゴー部会の販売額が 7 億円を突破したことを記念する大会がゆ〜ぱるのじりにて開催され、部会員と関係機関合わせて約 70 名が参加しました。大会では、マンゴー部会発足時 (H12) に普及センター職員として尽力した県職員 O B の濱田氏からの祝辞文や、販売額が 7 億円に至るまでのあゆみについての紹介などがありました。過去に普及センター職員としてマンゴー部会に関わった現県職員も参加し、生産者との昔話に大いに盛り上がりました。

さらなる販売額の高みに向けて、関係機関と連携し引き続き支援していきます。

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成) 1) 就農相談会を実施

12 日に、えびの市で肉用牛での就農予定者の就農相談を行いました。

経営計画の作成に向けた支援策の活用や計画を立てる上で必要な施設投資等の確認が行われ、収支計画試算等に向けた内容整理が進められました。

また、28 日に、えびの市で既に就農を開始している新規就農者 1 名に対して計画の見直しのための就農相談を行いました。

いずれも、経営計画の明確化に向けた支援を引き続き行う予定です。

※就農相談対応 2 者 2 回

(内訳 えびの市：肉用牛繁殖 1 者、水稻ほか 1 者、
小林市：マンゴー 2 者 (※ 2) に記載のお試し就農受入れ時に実施))

2) JA みやざきこばやしマンゴー部会でお試し就農を受入

24 日から 28 日に、JA みやざきこばやしマンゴー部会 4 名の農家で、お試し就農 2 名及び おてつたび 4 名の計 6 名の受け入れが行われました。

将来、小林市に移住し、就農を検討されるお試し就農者 2 名に対しては、個別に就農相談会を実施し、研修受入から就農までの流れや個別の質問への対応が行われました。

27 日には交流会も行われ、お試し就農及びおてつたびの参加者、受入れた生産者ともに充実した取組となりました。

今後は、来年度からの研修受け入れに向けた取組を進めていきます。



【受入れ農家での農作業】

3) にしもろサップの農業簿記勉強会を実施

21 日に、にしもろサップの農業簿記勉強会を行いました。えびの市 S A P からの要望により 4 名の参加のもと行われ、勉強会では、はじめに各自で農業簿記の過去の試験問題を解いた上で、その後、普及センターから解説を行う形で実施しました。

参加した会員については、今後も経営管理に関するレベルアップが必要という課題は見つかりましたが、決算書を読み解くなどの財務管理能力のスキルアップの機会となりました。



【理解するまで 1 つずつ解説】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 普通期水稻収量調査を実施

6日、7日に、西諸県農業改良普及センターにおいて、今年度の水稲の展示ほや定点ほ場で刈り取った稲を脱穀し粃すりして、玄米の重量から収量を算出しました。今年度は、登熟歩合は平年より増加したものの、1穂粒数・千粒重が低下したため、収量は平年の94%となりました。これらの結果と今年度の管内水稲生産状況の聞き取りなどから、次年度以降の高品質な水稲生産のための技術指導を行っていく予定です。



【脱穀や※唐箕(とうみ)作業】

※唐箕(とうみ)とは、風の力を使って脱穀後の粃殻などの軽いゴミを選別する昔ながらの農器具

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) かんしょ栽培講習会を開催

20日と21日に、JAこばやしかんしょ部会員を対象に栽培講習会が開催され、生産者35名が参加しました。普及センターからは、健全な種いも・苗を確保し、病気を発生させないための種いも生産・育苗管理について説明しました。今年は、管内ではサツマイモ茎根腐細菌病の発生が拡大したため、生産者からは病気を出さない対策についての質問が多く出ました。



【発病を防ぐ管理についての説明】

2) 西諸県地区農業水利総合開発促進協議会幹事会及び担当者会の開催

20日に、高原町総合保健福祉センターほほえみ館において「西諸県地区農業水利総合開発促進協議会」幹事会及び担当者会が開催され、関係機関(市町、JA、西諸土地改良区、振興局、普及センター)の23名が出席しました。

高原町からは、畑かんに関する取組みや今後の推進に関する説明が行われ、普及センターからは、県内関係者へのアンケートに基づく畑かん営農推進、畑かん水と植物生理に関する情報提供を行いました。

今後も、関係機関と連携し、地域の畑かん営農推進に向けた取組を行って参ります。

3) 畑かん散水器具展示会の開催

2日に、JAこばやし地区・ふれあいフェスタ会場において、散水器具展示会を実施しました。来場者に対して畑かん事業のPRを行うとともに、畑かん受益者へ散水器具の情報提供、意見交換を行いました。

この会場での展示会開催は初の試みでしたが、様々な視点から畑かんに関するご意見、要望等を聴取することができました。

今後も畑かん営農の推進に対する効果的な事業を進めてまいります。



【来場者に散水器具をPR】

4) 採種さといも生産者巡回を実施

5日と17日にえびの市の採種さといも生産者2名の巡回を行いました。西諸県地域は「石川早生」の種いもの産地として、県内各地へ種いものが供給されており、11月から3月まで出荷・調整作業が続きます。採種さといも生産者は、年々減少していることから、採種技術の伝承や参入支援を行ってまいります。

(魅力的な子牛産地を支える実力ある肉用牛繁殖経営の確立)

1) セリ前講習会の実施

14～16日に、小林地域家畜市場において、子牛セリ市開始前に講習会を行いました。11月は「子牛の発育③～育成期～」、「子牛における寒冷ストレス対策」をテーマに講習会を行い、延べ150名程度の参加がありました。

参加者からは、哺育期の稲わら給与について質問があり、当講習会を通して子牛の栄養管理について見直すきっかけとなったようでした。

今後も継続して、基本的技術の紹介を行っていきます。



【講習会に参加する農業者】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) 令和7年度JAこばやしきゅうり生産部会定期総会

17日に、小林市管内において、こばやしきゅうり生産部会の定期総会が開催されました。総会では議案すべて承認され、令和8年度が無事スタートしました。部会員が平成30年度63名から本年度41名まで減少しているという報告を受けて、生産者からは新規就農者の確保と育成を強化してほしいといった意見が出されました。普及センターとしましては、市町、JAと連携して、担い手の確保や新規就農者の育成等の取り組みを引き続き行っていきます。



【表彰を受ける生産者】

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 宮崎県果樹振興協議会 ぶどう部会生産者研修会

13日に、総合農業試験場において標記研修会が開催され、西諸県地域からは生産者3名、関係機関2名が参加しました。研修では、総合農業試験場の専門技術指導員から有機質資材の投入による土壌改良や秋期の根切り処理による発根促進（細根誘導）の重要性についての話があり、生産者からは、タイミングや根切り処理方法など多くの質問が出ました。土壌の物理性が生育に与える影響について勉強になる内容であったため、巡回などで土壌改良の重要性について伝えていきたいと思えます。



【熱心に聞き入る参加者達】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) 西諸管内のランンキュラス作付調査の実施

25日に、西諸県花き技術員会員による、JAこばやし管内のランンキュラスの作付け調査を実施しました。10月下旬の定植後から約1か月以上が経過し、品種ごとの活着数や生育状況について情報共有することができました。

今年は、定植後、ランンキュラスに適した天候であったことから、生育は順調でした。引き続き関係機関で協力し、良品生産に向けて支援していきます。

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 農業経営体支援センターとの連携

17日に、こばやし地域、えびの地域の農業経営体支援センターと合同で打ち合わせを行い、各支援センターの事業進捗や今後の計画について共有し、連携しながら進めていくことを確認しました。

また、普及センターで開催予定の経営分析研修の対象者の選定も行い、今後対象者へのヒアリングを行いながら研修内容を詰めていきます。

今後も各経営体支援センターと連携しながら経営支援を行っていきます。

2) 女性農林漁業者ネットワーク交流会へ参加

17日に、宮崎市(JAアズムホール)で行われた女性農林漁業者ネットワーク交流会に西諸県地区女性農業者サポート協議会構成員5名、事務局4名が参加しました。

交流会では、まず各構成団体の活動紹介が行われた上で、6～8名程度のグループに別れ自己紹介や普段の仕事や農山漁村の暮らしについて自由に意見交換を行うことで、参加者同士の交流が図られました。多数の関係機関も参加するなか、会の運営については、女性農林漁業者が中心に進められ、有意義な交流の機会となりました。



【ネットワーク交流会意見交換会】

3) 茎わさび栽培講習会を開催

4日に、管内の生産者5名、関係者(JAこばやし、経済連等)5名を参集して、茎わさび栽培講習会を実施しました。

今年度は、生産者6名、栽培面積50aの予定で、普及センターからは、栽培暦を使って講習を行いました。また、経済連からアグリシード苗の生育が順調との報告もあり、11月下旬の苗配布と定植作業のスケジュールについて確認しました。

今年度から導入された鉄コンテナ出荷による収穫作業の大幅な省力化も影響し、生産者の生産意欲も高まっています。



【熱心に説明を聞く生産者】

4) 令和7年度JAこばやしゴーヤー生産部会定期総会

13日、小林市管内において、こばやしゴーヤー生産部会の定期総会が開催されました。総会では議案すべて承認され、令和8年度がスタートしました。今作は高温障害などにより、生産者にとって栽培が難しい年でした。8年度も高温障害の発生が考えられるので、関係機関と連携して、高温対策を重点的に栽培指導を行っていきます。



【あいさつをする部会長】

5) 第6回西諸県地区果樹技術員会

17日に、JAみやざきえびの市地区本部で標記会議を開催し、関係機関15名が参加しました。室内会議では、果樹産地構造改革計画の様式及び記載例の共有や、基盤整備と連動した果樹の振興について検討を行いました。基盤整備については、クリにおいてモデル的な取り組みを展開できないか検討を進めているところです。室内会議後に、基盤整備に取り組む場合の候補農地4箇所（えびの市内）の現状確認を行いました。荒れている農地もありましたが、保全管理がされている農地もあったため、いくつかの候補に絞ることができました。

今後は、候補農地の情報をとりまとめていきます。

6) 西諸県地区花き技術員会県外視察を開催

20～21日に営振協花き部会6名で、福岡県の切り花生産ほ場3カ所、花木生産ほ場1カ所を現地視察しました。この視察は、管内で生産されるラナンキュラスやキク等の主要な品目や新規性のある品目について、先進的な産地の現地視察や生産者との意見交換等を通して、地域の課題解決や技術員の資質向上を図る目的で実施しました。

ラナンキュラスは久留米市や大刀洗町、キクは糸島市内のほ場を視察しました。いずれも生育は良好で、栽培管理の工夫など参考になりました。また、花木生産ほ場については、消費拡大の工夫やサブスクリプション等の新しい取組について、参考になる情報を得ることができました。

今後は学んだことを活かした支援を実施していきます。



【生産者との意見交換】

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

